



中学校の部活動等のあり方

酒井 信幸

問 学校における働き方改革について、中央教育審議会で議論が行われ、文部科学省では議論を踏まえ取組を進めるとしている。市内の小中学校教員の勤務実態状況がどのように変わったのか。

学校教育課長 昨年度比マイナス15%を目標に努力してきました。4月から8月までの集計で、平均超過勤務は約40時間になっています。

問 現職の中学校教員の話では、部活動の活動時間は減ったが、教員の負担軽減にはなっていないとのこと。その他の業務はどこまで減ったのか。

教育長 校長会の意見を聞きながら行事を減らし、登下校についても保護者や地域の方々の理解を得ながら、徐々に変えていきたいと思っています。

部活動指導員配置しては

問 文部科学省では、来年度の予算要求に部活動指導員を配置する経費として13億円を盛り込む方針を決めた。市では、部活動指導員の

配置を考えているのか。

学校教育課長 宮城県としてはまだ明確になっていませんが、市では学校のニーズと合致した場合、配置することを考えています。

問 部活動を制限することにより、地域のスポーツ指導者から多数の戸惑いの声を聞くが、そのことに對してどのように思うか。

教育長 部活動の範囲は学校の教育課程の中で、自立的、自発的な活動です。休みの日などは教員が指導するのではなく、学校がやれる範囲を決め、それ以上は民間の団体や地域の団体で行っていただきたいと思っています。

問 部活動を制限することについて、関係者への説明不足があったと思うがどうか。

教育長 平成26年から検討会を行い、学校の運営委員会やPTAの役員会でも話をし、校長会でも経緯について話をしてきました。伝わらなかったことは申し訳ありませんが、性急に行ったことではなく、順々に行ってきました。



仙台空港との共栄

植田美枝子

問 24時間運用に向けての説明会で、騒音問題は空港周辺に限らずかなりの地域で確認されているが、市の認識はどうか伺う。

総務部長 騒音は、法の基準内であり、法の趣旨を踏まえて対応していきます。

問 貨物飛行機が夜中も飛ぶことになる。市民に理解してもらうには何が必要と考えるか伺う。

総務部長 県の資料では、57デシベルを超えると見込まれるのは矢野目地区です。議会の意見もいただきながら判断していきます。

問 仙台空港周辺まちづくり協議会を構成する地域はどこか伺う。

総務部長 矢野目地区と旧相野釜地区です。

問 県の騒音調査の場所に相野釜地区は入っているか伺う。

総務部長 今回の報告には入っていません。

問 県との協議において大切な立場の会のはずが、あまりに一部の地域だけでの協議会ではないか。

総務部長 空港の時間延長の際に対象となった地域で、今回は区

別すべきと考えます。

協議会を見直すべきでは

問 県は、「協議会の意見をまず聞く」として、意見を聞く窓口と位置付けている。この協議会のあり方を見直すべきではないか伺う。

総務部長 その必要は現在ないと考えています。

問 県と市から毎年補助金も出ているこの協議会は、市民が納得する形にすべきではないか伺う。

総務部長 空港周辺の捉え方について議論があればしっかり議論します。

問 県からの地域復興策の支援は騒音問題を抱えている市民に公平に向けるべきではないか伺う。

総務部長 当時の協定に基づいて県から交付金をいただき、空港周辺の環境づくりをしました。今回時間延長の提案を受けて、新たに検討します。

◎その他の一般質問

・小中学校のエアコン整備
・障害者雇用